

コラム：日台交流の現場から

台湾 ～ これほど親日とは！

(財) 交流協会台北事務所 総務部長 岡田 健一

8月10日の着任以来、ちょうど1か月が経ち、ようやく落ち着きだした最近です。日本本土より遥かに南にある台湾はさぞや秋の訪れは遅いのかと思いきや、最近、朝夕は涼しくなり、早くも秋の気配を感じます。その一方で、今も日本は残暑で30度を超える日々が何日も続くとの報道を耳にすると、そういえば夏の間も、日によっては東京の気温よりも台北の気温の方が低い日もあったなと不思議な気持ちになります。

さて、台湾に着任する前も、台湾は親日的だということは、自分でも頭ではわかっていたつもりでしたし、また、今回もいろいろな方から日本を発つ前に数多くのエピソードを教えてもらっていたのですが、しかし実際に着任してみると、「これほど親日とは！」というのがいつわらざる実感です。台湾の親日の程度は自分の想像をはるかに超えていたのです。

もちろん、台湾の方は、一般的に人情味があり、相手の国籍を問わず親切なのだと思いますが、限られてはいますが自分の経験でも、とても親切に対応していただいています。特に、年配の方は、我々日本人よりもむしろエレガントな日本語で、優しく応対してくださります。単に日本が好きというのではなく、日本に期待し、日本を応援してくださるのです。本当の友人しかできない良い意味での叱責をしてくれるのも日本に対する本当に暖かい気持ちを持っておられるからこそだということもあります。また、若い方も、主として日本の文化に共感されてでしょうか、日本に強い関心を持ち、日本が好きと言い切ってください方も少なくありません。ある真夜中、タクシーに乗った

ら、日本の歌が流れていたもので、20歳過ぎにしか見えない運転手さんに、「日本語の歌ですね。お好きなのですか。」と中国語で聞いたら、「えんか、すきです。にほん、すきです。」という日本語の答えが返ってきました。ラジオではなく、テープで聞いておられたようです。そのあと10分くらい中国語で雑談しましたが、目的地について降りるときには、楽しく話せたといって、運転手さんは料金を相当まけてくれました。

街を歩いていても、とにかく、日本が目につきます。まず、交流協会台北事務所の周りにも何軒も日本関連のレストランがありますが、着任当日は、当事務所の近辺だからそうなのだろうくらいにしか思っていなかったのです。しかし、2～3日して、若者が集まる渋谷のセンター街みたいなところにぶらっと出かけてみたら、そんな場所でも、すごい密度で日本関連の店がありました。伝統的日本料理店あり、回転寿司あり、とんかつ屋あり、ラーメン屋あり、さらには沖縄料理の屋台あり、実はもっとあったのですが、もう思い出せません。こういった店が、繁華街に、隣同士とまでは言えないものの、すごい密度で入っているのです。ほんとうにびっくりしました。また、2週間後に住むことが決まったマンションから事務所まで徒歩15分程度の距離ですが、日本式しゃぶしゃぶの店3軒、ラーメン屋1軒、創作日本料理2軒、回転寿司1軒、支店が銀座などにあると書いてある日系のコーヒーショップ1軒、日本式パン屋さん2軒とすごい数の店が、その短い道筋にあるのです。さらに、レストランだけでなく、歯医者さんの看板には日本の某大学歯学部卒業ということを書いているものもあれば、日本の国家試験合

格と書いているものもあります。日本は、世界中で広く受け入れられていると思いますが、ここまで深く受け入れてくれるところも、ほかにはあるまいというのが正直な感想です。

お店に入っても、また、そういう世界があります。住んでいるマンションの近くにあるスーパーでは、日本の商品が「日本で研究開発」といった表示付きで、ところせましと並んでいます。小間物屋さんでも、たわしや洗濯バサミにまで、台湾製の品物なので大半の説明や商標は中国語ですが、日本語で「きれいで清潔」とか「安心して使える」といったコピーが少し付されています。テレビをつけても、日本語音声をそのままCMで流している日本製品の映像がいくつも流れます。それほど、日本、日本語というものに台湾の人々がポジティブな印象を持っておられるということなのでしょう。

そう考えてくれば、今回の大震災に対して台湾から約200億円もの義捐金が届いたことも少しは分かるような気がします。日本の人口は台湾の5倍、日本の一人当たりGNPは台湾の2倍という大雑把な計算をすると、台湾の人々が200億円を送ってくれたということは日本が2000億円を近隣国の災害に送ったということに等しいわけです。そのようなことを我々日本人ができるだろうかということを考えると、どれだけ台湾の方が日本に気持ちを寄せていただいたかということに思いが至り、ありがたさで胸が熱くなります。

台湾に足を運ばれたことのない方、是非、一度お越しください。日本のすぐそばに、これほど日本のことを思ってくださる方々がいるのです。ぜひ、日台の絆が更に一層温かく強固なものになってほしいと願ってやみません。自分も微力をつくしたいと考えていますので、皆様の御指導御鞭撻を是非よろしくお願い申し上げます。